nittoku

株主の皆様へ

第106期報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

日本特殊塗料株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

当社グループの第106期（平成23年４月１日から平成24年３月31日まで）の営業の概況をご報告申しあげます。

事業の概況

当連結会計年度における経済情勢は、東日本大震災による甚大な被害や急激な円高などによる経済活動の停滞から、個人消費や設備投資の改善に伴って、穏やかに回復してまいりました。

一方、欧州の財政不安など世界経済の減速、原油価格の高騰など依然として先行き不透明な状況が続いております。主要な顧客先である自動車業界におきましては、震災による減産からの生産挽回が急速に進んだことや、エコカー減税の延長や補助金の復活などにより、年後半以降の自動車生産台数は前年同期に比べて大きく上回りました。

このような事業環境のなか、当社グループは、顧客の多様なニーズに合わせ環境に配慮した製品や特別な機能を有する魅力ある新製品の開発に取り組むとともに、新興国を中心とした成長市場の需要に対応すべく、受注・生産体制の強化などの取り組みに注力しました。また原価低減活動などの収益改善に取り組んでまいりました。

以上の結果、連結売上高につきましては、震災による影響はあったものの、第３四半期以降は自動車の需要回復に伴う売上増加により322億３千８百万円（前期比2.0％増）となりました。

損益につきましては、売上高の増加と固定費などの削減効果により営業利益は８億９千５百万円（前期比10.7％増）となりました。経常利益は主に海外関係会社の持分法投資利益により16億４千７百万円（前期比0.2％増）、当期純利益は、受取保険金、負ののれん発生益の計上により13億８千９百万円（前期比14.7％増）となりました。

このような業績を勘案しまして、当期の株主配当金につきましては１株につき10円（中間配当金４円、期末配当金６円）とさせていただきました。

今後の見通し

今後の世界経済の見通しにつきましては、欧州では財政不安に伴う実体経済の悪化が懸念され、米国経済も雇用や個人消費に改善の兆しが見られるものの回復の足取りが重く、また、これまで経済成長を牽引してきた中国・インドなどの新興国にもやや陰りが見られるなど波乱含みの状況にあります。一方、国内においては震災復興予算の執行による復興需要、エコカー減税の延長や補助金などの政策効果により内需の下支えが期待できる一方で、原発稼動停止による電力不足や電気料金の値上げ、財政赤字問題などの懸念材料もあり、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

自動車業界では、国内は大震災からの生産回復とエコカー補助金など政策により需要が見込まれるものの、補助金終了後の反動減やアジアなど新興国への自動車生産シフトの加速が予想されます。一方の塗料業界も大震災からの復興需要が期待されますが、極めて競争の激しい業界であり、販売拡大には販路の拡大が重要となります。

このような経済情勢のもと、当社グループでは市場ニーズに即応した新製品の開発、生産、品質、原価、物流など、より顧客志向で深化したグローバル展開を推進するとともに、競争力の強化に向けた生産体制、更なるコスト削減など収益力の強化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、お願い申しあげます。

平成24年6月

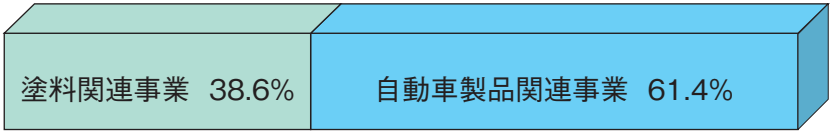
代表取締役社長
野島雅寛

セグメント別事業概況

■セグメント別売上高

塗料関連事業　　売上高　　12,444百万円
自動車製品関連事業　　売上高　　19,780百万円

セグメント別売上高構成比



■セグメント別売上高の概況

〔塗料関連事業〕

当セグメントの業績につきましては、収益改善に繋がる生産性の追求と改正省エネ法対策の環境対応型塗料を主力に売上の拡販に取り組みました。

品種別売上高につきましては、建築・構築物用塗料のうち一般塗料の屋根用塗料は、市場の競争激化や天候不順などの影響もありましたが、遮熱塗料の拡販に取り組んだ結果、前期比2.5％増加となりました。また、公共施設物件や民間設備投資の需要回復に伴い床用塗料は前期比3.6％増加、防水用塗料は前期比7.8％増加しました。

工業塗料の建材塗料では、壁材など受注量の増加により前期比9.3％増加しました。一方、航空機用塗料は、民間機の塗替需要の減少などの影響で前期比7.5％と減少しました。

工事関連では、震災による景気低迷の影響もありマンションなど改修工事の受注減少により前期比7.3％と減少しました。

この結果、当セグメントの外部顧客への売上高は124億４千４百万円（前期比微増）となりました。

〔自動車製品関連事業〕

当セグメントの業績につきましては、第２四半期累計期間までは東日本大震災により売上高・損益ともに対前年同期を下回りました。第３四半期以降は、震災による減産からの生産回復にあわせ、新たにエコカー減税の延長や補助金の復活などの措置が打ち出されたこともあり、国内の自動車需要は徐々に回復し、国内乗用車生産台数の回復により通期では売上増加となりました。

品種別売上高につきましては、制振材は、塗布型防錆塗料への移行による減少の影響もあるものの前期比1.4％増となりました。防錆塗料は、制振材からの移行や新規受注により前期比6.7％増加しました。吸・遮音材は前期比1.2％の増加となりました。その他売上では、海外向け防錆塗料用の材料輸出の需要増加により前期比13.8％の増加となりました。

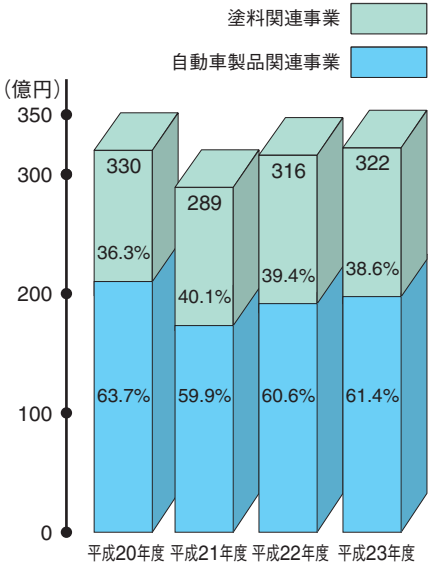
この結果、当セグメントの外部顧客への売上高は197億８千万円（前期比3.3％増）となりました。

財務・業績サマリー

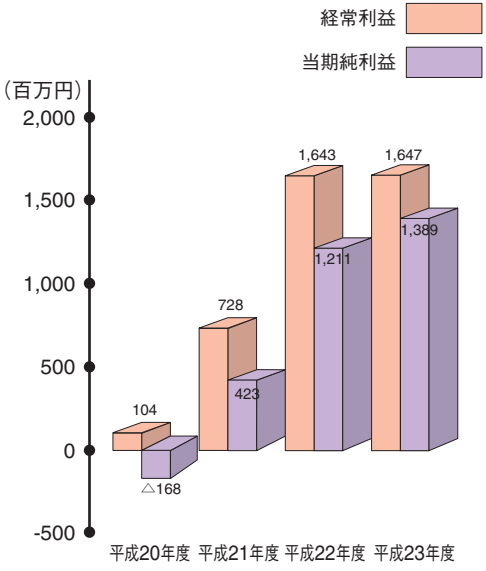
■業績の推移（連結ベース）

区　　分	平成20年度 第103期	平成21年度 第104期	平成22年度 第105期	平成23年度 第106期
売　上　高（百万円）	33,028	28,992	31,605	32,238
経 常 利 益（百万円）	104	728	1,643	1,647
当期純利益（百万円）	△168	423	1,211	1,389
１株当たり当期純利益（円）	△7.23	19.06	54.78	62.85
総　資　産（百万円）	34,300	35,705	36,345	38,024
純　資　産（百万円）	16,171	17,145	18,064	18,879
１株当たり純資産（円）	674.78	753.00	793.17	831.35

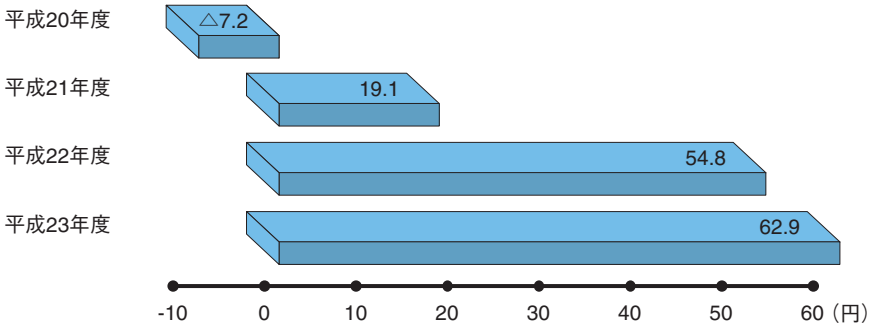
①売上高（セグメント別）



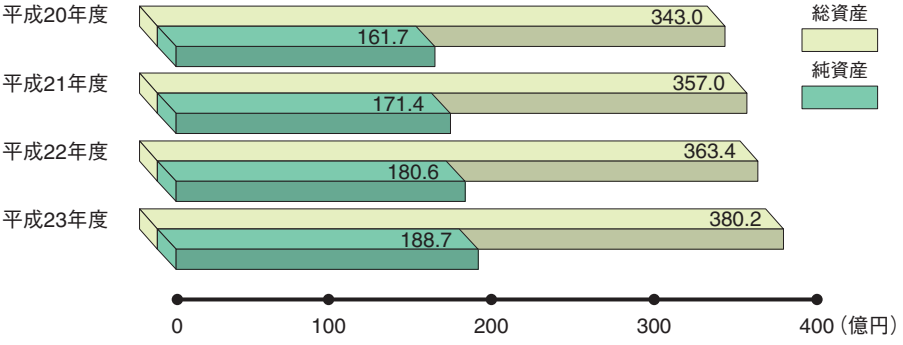
②経常利益・当期純利益



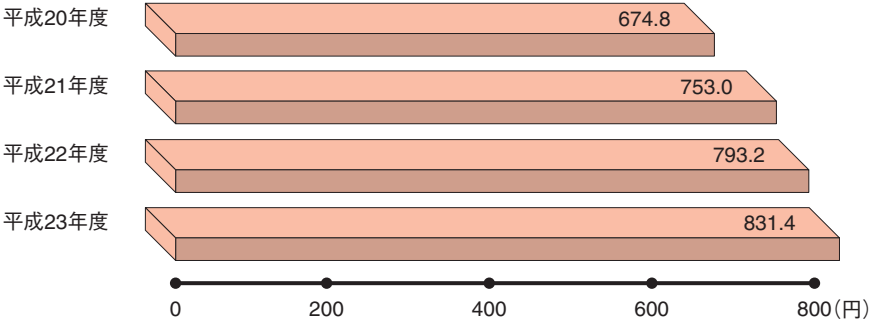
③１株当たり当期純利益



④総資産・純資産



⑤１株当たり純資産



財務諸表（連結）

■連結貸借対照表

（金額単位：千円）

科目	当期（平成24年3月31日現在）	前期（平成23年3月31日現在）
資産の部		
流動資産	**17,644,017**	**15,735,397**
現金及び預金	4,679,265	4,117,142
受取手形及び売掛金	10,063,633	8,466,126
有価証券	—	146,020
商品及び製品	1,003,942	1,067,806
仕掛品	268,330	256,331
原材料及び貯蔵品	788,155	901,374
繰延税金資産	368,198	380,986
その他	484,055	418,275
貸倒引当金	△ 11,564	△ 18,666
固定資産	**20,380,371**	**20,610,046**
有形固定資産	**10,411,250**	**10,802,750**
建物及び構築物	3,384,439	3,400,314
機械装置及び運搬具	2,564,999	2,982,829
土地	3,393,483	3,181,945
その他	1,068,328	1,237,661
無形固定資産	**103,899**	**91,167**
その他	103,899	91,167
投資その他の資産	**9,865,220**	**9,716,127**
投資有価証券	7,681,782	8,107,542
長期貸付金	327,543	124,875
繰延税金資産	483,546	294,798
その他	1,377,523	1,196,165
貸倒引当金	△ 5,176	△ 7,253
資産合計	**38,024,388**	**36,345,443**

（金額単位：千円）

科目	当期（平成24年3月31日現在）	前期（平成23年3月31日現在）
負債の部		
流動負債	**14,771,077**	**10,811,738**
支払手形及び買掛金	8,141,367	6,894,846
短期借入金	3,732,144	1,235,433
未払法人税等	317,882	129,836
役員賞与引当金	32,050	19,690
その他	2,547,632	2,531,931
固定負債	**4,373,559**	**7,469,700**
長期借入金	1,469,023	4,685,174
退職給付引当金	2,801,712	2,741,852
その他	102,824	42,673
負債合計	**19,144,637**	**18,281,438**
純資産の部		
株主資本	**18,197,836**	**17,034,533**
資本金	**4,753,085**	**4,753,085**
資本剰余金	**4,362,368**	**4,362,368**
利益剰余金	**9,582,093**	**8,414,325**
自己株式	**△ 499,710**	**△ 495,245**
その他の包括利益累計額	**172,461**	**505,675**
その他有価証券評価差額金	1,147,608	1,378,686
為替換算調整勘定	△ 975,147	△ 873,010
新株予約権	**—**	**61,519**
少数株主持分	**509,453**	**462,276**
純資産合計	**18,879,750**	**18,064,004**
負債及び純資産合計	**38,024,388**	**36,345,443**

■連結損益計算書

（金額単位：千円）

科目	当期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）	前期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）
売上高	**32,238,701**	**31,605,954**
売上原価	**25,890,119**	**25,181,191**
売上総利益	**6,348,582**	**6,424,762**
販売費及び一般管理費	**5,452,760**	**5,615,300**
営業利益	**895,821**	**809,461**
営業外収益	**893,320**	**1,093,094**
受取利息及び配当金	80,118	88,369
持分法による投資利益	686,369	939,731
その他	126,832	64,992
営業外費用	**142,079**	**259,225**
支払利息	107,336	127,967
為替差損	25,278	101,062
その他	9,464	30,195
経常利益	**1,647,062**	**1,643,330**
特別利益	**403,409**	**531,195**
投資有価証券売却益	—	526,298
新株予約権戻入益	61,519	—
負ののれん発生益	234,169	—
受取保険金	106,724	—
その他	995	4,897
特別損失	**18,651**	**478,939**
固定資産処分損	16,683	221,861
投資有価証券評価損	1,967	9,136
災害による損失	—	244,341
その他	—	3,600
税金等調整前当期純利益	**2,031,820**	**1,695,586**
法人税、住民税及び事業税	446,506	189,906
法人税等調整額	141,426	255,181
少数株主損益調整前当期純利益	**1,443,886**	**1,250,498**
少数株主利益	54,176	39,112
当期純利益	**1,389,709**	**1,211,385**

■連結キャッシュ・フロー計算書

（金額単位：千円）

科目	当期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）	前期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,235,812	3,800,049
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,545,922	△ 676,828
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,095,971	△ 1,155,736
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 28,378	△ 99,410
現金及び現金同等物の増減額	565,539	1,868,074
現金及び現金同等物の期首残高	4,004,895	2,136,821
現金及び現金同等物の期末残高	4,570,435	4,004,895

■連結株主資本等変動計算書

（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）

（金額単位：千円）

残高及び変動事由	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,753,085	4,362,368	8,414,325	△ 495,245	17,034,533
当期変動額					
剰余金の配当			△ 221,942		△ 221,942
当期純利益			1,389,709		1,389,709
自己株式の取得				△ 4,464	△ 4,464
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	—	1,167,767	△ 4,464	1,163,302
当期末残高	4,753,085	4,362,368	9,582,093	△ 499,710	18,197,836

残高及び変動事由	その他の包括利益累計額			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,378,686	△ 873,010	505,675	61,519	462,276	18,064,004
当期変動額						
剰余金の配当			—			△ 221,942
当期純利益			—			1,389,709
自己株式の取得			—			△ 4,464
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 231,077	△ 102,136	△ 333,214	△ 61,519	47,176	△ 347,556
当期変動額合計	△ 231,077	△ 102,136	△ 333,214	△ 61,519	47,176	815,746
当期末残高	1,147,608	△ 975,147	172,461	—	509,453	18,879,750

株式の概況

■発行株式総数および株主数（平成24年３月31日現在）

発行可能株式総数	90,000,000株
発行済株式の総数	22,194,145株（自己株式1,417,055株を除く。）
株主数	3,466名（前期末比１名減）

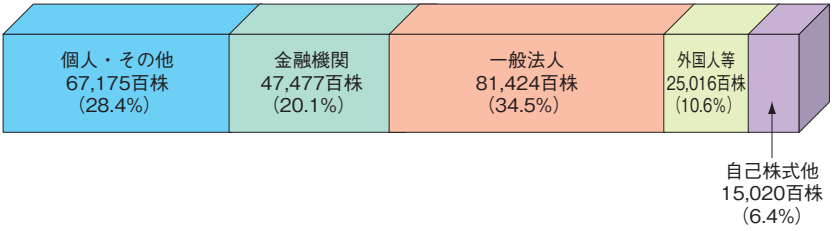
■大株主（平成24年３月31日現在）

株主名	持株数	持株比率
オートニウム ホールディング エージー	20,600 百株	9.28 %
関西ペイント株式会社	18,677	8.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	12,332	5.56
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	8,788	3.96
明治安田生命保険相互会社	7,560	3.41
トヨタ自動車株式会社	7,054	3.18
株式会社中外	6,130	2.76
ニットク親和会	5,607	2.53
日本特殊塗料従業員持株会	4,249	1.91
株式会社三井住友銀行	4,001	1.80

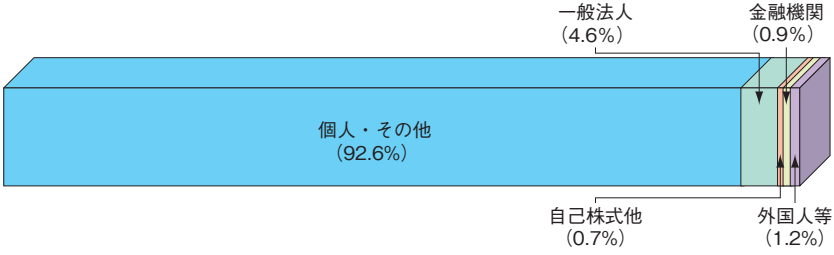
（注）1.　自己株式1,417,055株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
　　2.　持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

■株主構成（平成24年３月31日現在）

1.所有者別持株数比率



2.所有者別株主数比率　3,466名



TOPICS

●塗料事業本部

航空機用塗料「スカイハロー」がエア・ドゥ特別塗装機の「ベア・ドゥ　ドリーム号」に採用

北海道国際航空㈱（エア・ドゥ）のマスコットキャラクターとして使用している「ベア・ドゥ」を機体にデザインした特別塗装機「ベア・ドゥ号」（2009年就航）に続く同社の特別塗装機の2号機「ベア・ドゥ　ドリーム号」（ボーイング737-500）が2011年3月27日から、主に東京（羽田）―北海道の各空港間で運航しています。今回の特別塗装機は「やるからには飛行機まるごとベア・ドゥにしよう」との同社社内の声もあり、胴体面には可愛いマスコットのベア・ドゥ4体が描かれ、垂直尾翼にも1体が描かれました。1号機はモノクロでしたが、今回は色数も増えて、よりカラフルな機体となっています。

▲エア・ドゥ「ベア・ドゥ ドリーム号」

▲塗装中の「ベア・ドゥ ドリーム号」

この「ベア・ドゥ　ドリーム号」にも当社の航空機用塗料「スカイハロートップコートFLV2」が採用されました。同機は3月下旬に塗装され、使用された特注色は7色です。

皆様も搭乗される機会がございましたら、その可愛い機体をぜひご覧ください。

■写真提供／北海道国際航空㈱

●塗料事業本部

JR西日本／JR九州「さくら」「みずほ」（N700系）に防音材「ダンシェープ」が採用

2004年に新八代～鹿児島中央駅間にて開業した九州新幹線800系「つばめ」ですが、2011年3月12日に博多～鹿児島中央駅が全線開通となり、これに伴い新たにN700系の「さくら」「みずほ」が導入されました。山陽新幹線経由で新大阪まで乗り入れており、大阪からのアクセスも非常に便利になりました。

このN700系に当社とアルミ合金形材製造のメーカーである㈱神戸製鋼所との共同開発である「ダンシェープ」®（制振機能を有するアルミ形材）が採用されております。ご乗車の際には快適な室内と移動時間をお過ごしください。

▲N700系「さくら」「みずほ」

●自動車製品事業本部

中国「武漢日特固防音配件有限公司」が本格稼働

中国の湖北省武漢市に当社100%子会社の「武漢日特固防音配件有限公司」（WNA社）の工場が完成したのが2011年3月。WNA社は中国での日系自動車メーカー向け自動車用防音部品の生産会社としては、広州市、天津市に次いで3番目の会社となり、位置もちょうど中間になります。WNA社が立地する武漢には東風本田自動車があり、WNA社にとって最初のお客様への納入となりました。現在、新型CIVICの生産が開始され、すでに一部の職場では2交替勤務が始まる活況を呈しています。また、二大顧客の1社である東風日産自動車は、湖北省の北隣り河南省に2つの工場があり、WNA社からは2011年10月から制振材と吸・遮音部品の納入を開始しました。何かと厳しい中国市場ですが自動車市場の拡大とともに、今後も大きな飛躍が期待されます。

▲社屋外観

▲生産設備

TOPICS

●自動車製品事業本部

インド「ANIS社」の工場を増設

2008年、日産自動車㈱とトヨタ自動車㈱は新興国自動車市場攻略のためのグローバルエコカー（日本名マーチ）とエントリーファミリーカー（インド国内名ETIOS）の生産を相次いでインド南部で開始しました。当社は両社から自動車用防音部品の発注を受け、オートニウム社（本拠地スイス、旧社名リエタ社）との合弁会社として2008年にインド南部の工業都市チェンナイに「ANIS社」の工場建設を行ない、2010年5月から生産を始めています。当社にとっても低価格新興国モデルの部品ビジネスで利益が出せる部品づくりができるか大きな挑戦でした。

本格稼働開始からほぼ2年が経過し、顧客の順調な発展に伴う供給量増とフェルト原反の内製化のために工場フロア面積を従来の3,000㎡から倍の6,000㎡に増加する工事を昨年終えました。増加したフロアには、カーペットの成型セルを2基に増設し、また新たに熱可塑フェルト原反製造ラインも設置しました。この結果、カーペットの生産能力は年間で60万台分、ダッシュインシュレーターの生産能力は年間で70万台分となります。今後も増築、増設効果がフルに現れるよう果敢に挑戦します。

▲社屋外観

●自動車製品事業本部

インドネシアに合弁会社を設立

当社はインドネシアにおける日系自動車メーカーの自動車用防音材の需要拡大に対応するため、2012年4月19日に現地パートナー「Tuffindo Raya」と合弁会社「PT.Tuffindo Nittoku Autoneum」（TNA社）を設立しました。

出資比率はTuffindo Rayaサイドが51%、当社とAutoneum社の2社合わせて49%、資本金は600万米ドルです。

TNA社はジャカルタ東部の西ジャワ州カラワン地区を拠点とし、工場用地の取得も完了しています。2012年末に自動車用の制振材、吸･遮音部品の生産開始を目指し、現在急ピッチで新工場の建設が進められています。

インドネシアの自動車市場は2010年に約76万台に達し、数年内には100万台を超えると予測されております。当社ではアセアン諸国で拡大する自動車の需要に合わせて、タイの関係会社のSNC Sound Proof Co.,Ltd.およびSRN Sound Proof Co.,Ltd.と部品供給面など連携を深め、今後も設備を順次拡大し、生産量を引き上げていきます。

会社の概況（平成24年3月31日現在）

商号	日本特殊塗料株式会社
英文名	Nihon Tokushu Toryo Co., Ltd.
創業年月日	昭和4年6月1日
資本金	4,753,085,000円
発行済株式総数	23,611,200株
従業員数	504名（126名*）［連結660名（174名*）］ *（ ）内人員は臨時従業員の外数です。

■役員（平成24年6月26日現在）

●取締役・監査役

代表取締役社長	**野島雅寛**	
常務取締役	**酒井万喜夫**	自動車製品事業本部長
常務取締役	**田谷　純**	業務本部長
取締役	**水野賢治**	塗料事業本部長
取締役	**山口久弥**	開発本部長（兼）自動車製品事業本部副本部長（兼）愛知工場長
取締役	**遠田比呂志**	自動車製品事業本部副本部長（兼）原価管理部長（兼）購買部長
常勤監査役	**豊島武博**	
監査役	**山上大介**	公認会計士
監査役	**奈良道博**	弁護士

●執行役員

執行役員	**川名宏一**	海外事業部長（兼）中国・アセアン業務室長
執行役員	**高田健生**	自動車製品事業本部副本部長（兼）静岡工場長
執行役員	**安井芳彦**	中国・アセアン業務室長付部長（兼）日特固（広州）防音配件有限公司副総経理
執行役員	**西岡寿美**（新任）	塗料事業本部副本部長（兼）福岡営業所長（兼）九州工場長
執行役員	**土井義彦**（新任）	塗料事業本部副本部長（兼）東京営業所長（兼）ニットクメンテ㈱代表取締役社長
執行役員	**南雲三智夫**（新任）	自動車製品事業本部 営業統括部長（兼）東日本第2営業所長

（注）監査役山上大介氏および奈良道博氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。
（注）執行役員うち新任3名については、平成24年7月1日付け就任予定です。

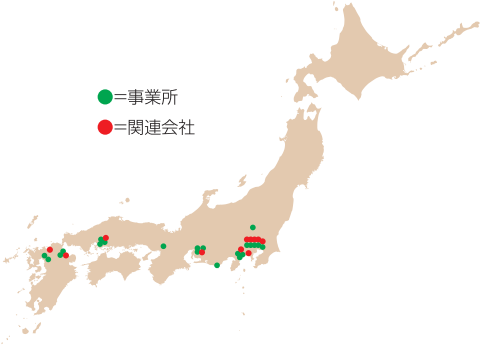
事業所（平成24年3月31日現在）

■国内事業所

●本　　社	東京都北区
●開 発 本 部	東京都北区
●営　業　所	
東京営業所	東京都北区
営業統括部	東京都北区
平塚営業所	神奈川県平塚市
東日本第1営業所	神奈川県平塚市
東日本第2営業所	群馬県館林市
名古屋営業所	愛知県知立市
中日本営業所	愛知県知立市
大阪営業所	大阪府吹田市
広島営業所	広島県東広島市
西日本営業所	広島県東広島市
福岡営業所	佐賀県三養基郡
東九州出張所	福岡県行橋市
DIY販売部	東京都足立区
●工　　場	
平塚工場	神奈川県平塚市
静岡工場	静岡県御前崎市
愛知工場	愛知県知立市
広島工場	広島県東広島市
九州工場	佐賀県三養基郡
東九州工場	福岡県行橋市

●関連会社

ニットク商工株式会社	東京都北区
ニットクメンテ株式会社	東京都北区
株式会社ニットク保険センター	東京都北区
大和特殊工機株式会社	神奈川県藤沢市
日晃工業株式会社	東京都足立区
株式会社エヌシー	愛知県知立市
株式会社タカヒロ	広島県東広島市
株式会社ニットクシーケー	福岡県行橋市
富士産業株式会社	神奈川県平塚市
梅居産業株式会社	福岡県福岡市
株式会社オートニウム・ニットク・アジアパシフィック	東京都北区



▲本社

▲開発センター

▲塗料技術棟

▲平塚工場

▲静岡工場

▲愛知工場

▲広島工場

▲東九州工場

▲九州工場

■海外事業拠点・関連会社

●Uni-NTF,INC.	米国　イリノイ州
●UGN,INC.	米国　イリノイ州
●SNC Sound Proof Co.,Ltd.	タイ　Amphur Muang
●SRN Sound Proof Co.,Ltd.	タイ　Amphur Panthong
●日特固（広州）防音配件有限公司	中国　広東省広州市
●天津日特固防音配件有限公司	中国　天津市
●武漢日特固防音配件有限公司	中国　湖北省武漢市
●Autoneum Nittoku Automotive Sound Proof Products India Pvt.Ltd.	インド　タミル・ナードゥ州チェンナイ市
●PT.Tuffindo Nittoku Autoneum	インドネシア　西ジャワ州*

*平成24年4月19日付 設立

▲UGN,INC.

▲天津日特固防音配件有限公司

▲Autoneum Nittoku Automotive Sound Proof Products India Pvt.Ltd.

▲SNC Sound Proof Co.,Ltd.

▲武漢日特固防音配件有限公司

▲SRN Sound Proof Co.,Ltd.

▲日特固（広州）防音配件有限公司

遮熱塗料の日本特殊塗料は、建造物のあらゆるところで「遮熱」を展開し、省エネ・節電効果に貢献しています。

現在、あらゆる面での「省エネ」と「節電」が求められています。この省エネと節電は、当社の塗料を施工することでその効果を発揮します。

当社は2001年に屋根用省エネ・遮熱塗料「パラサーモ」を開発し、現在に至るまで建築業界で高い評価を得て、全国各地の工場屋根や体育館、一般家屋などで数多くの施工実績があります。現在では省エネ・遮熱塗料を「屋根」「外壁」「屋上・バルコニー」「床・舗装面」、さらに建造物の「ガラス面」まで総合的に展開しています。

屋根用では標準タイプの「パラサーモ」、環境に配慮した「水性パラサーモ」、高光沢・高耐候性の「パラサーモシリコン」、中塗層に中空バルーンを配合し、上塗との組み合わせで遮熱と防音機能を併せ持つ「パラサーモシールド」を取り揃えるとともに、屋上・バルコニーでは遮熱と断熱機能を発揮するウレタン塗膜防水材「プルーフロン遮熱工法」と上塗塗料「プルーフロンGRトップ遮熱」、シート防水材専用の遮熱塗料「ノンリークコート遮熱」があります。

また、外壁用ではパラサーモの遮熱技術を応用した「パラサーモ外壁用」「水性パラサーモ外壁用」「シルビアセラティー遮熱」、自動車用防音技術を組み入れた多機能型弾性外断熱システムの「NTダンネツコート」を用意しています。さらに、床・舗装面にはシリカ反応型の水性遮熱カラー舗装材「ユータックシリカ遮熱」、舗装された道路面からのヒートアイランド現象を抑制する「ユータックロードトップ遮熱」があります。

近年の2010年にはガラス面用の遮熱塗料「NTサーモバランス」を開発し、夏場のエアコンなどの省エネ効果、節電効果とともに居住空間を快適にする製品として好評を博しています。

当社の省エネ・遮熱塗料シリーズは建造物などの温度上昇を抑えることで、エアコンなどの空調設備の省エネ効果を発揮するとともに、さまざまな個所での節電対策にも大きく貢献しています。

今後も当社は省エネ・遮熱塗料の総合メーカーとして同塗料の開発と普及に努めていきます。

▲遮熱塗料案内パンフレット

▲省エネ・遮熱塗料の販促用カタログおよび色見本帳

株主の皆様へ

平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年、さらに本年も、全国的に節電が求められる現状を踏まえ、弊社の省エネ・遮熱塗料をご案内申し上げます。この省エネ・遮熱塗料は建物の屋根から外壁、ガラス面などへ塗装することで、室内の温度低減効果（節電）が期待でき、すでに全国各地で多数のご採用をいただいております。皆様方やご親戚、知人の方々の住宅に塗装いただきたい製品でございます。省エネ・遮熱塗料での改修工事がございましたら、ぜひとも下記の弊社営業所までご連絡いただきますようお願い申し上げます。弊社の改修工事専門の担当者、特約の施工業者とともに最適な省エネ・遮熱塗料と改修工事のご提案をさせていただきます。

省エネ・遮熱塗料の施工場所はイラストのとおりです。住宅の省エネと節電、美観、資産維持のため、ご検討のほどをよろしくお願い申し上げます。

■省エネ・遮熱塗料での改修個所の例

屋根用省エネ・遮熱塗料

パラサーモシリーズ

屋根からの太陽熱の侵入を防ぎ、室内の温度上昇を抑える塗料です。

ベランダ・バルコニー用省エネ・遮熱塗料

プルーフロンGRトップ遮熱

ベランダ面などに当たる太陽光線を反射し、熱を放射する遮熱タイプの塗料です。

ガラス面用省エネ・遮熱塗料

NTサーモバランス

既存の窓ガラスに塗布し、赤外線、紫外線カットができる透明タイプの塗料です。

外壁用省エネ・遮熱塗料

水性パラサーモ外壁用・パラサーモ外壁用シルビアセラティー遮熱

外壁面からの熱の侵入を遮り、省エネルギーに貢献するとともに快適な居住空間を実現します。

通路用省エネ・遮熱舗装材

ユータックシリカ遮熱

太陽光や熱の蓄積を抑え、路面温度の上昇を減少し、ヒートアイランド現象を緩和する塗料です。

省エネ・遮熱塗料についてのお問い合わせ先

日本特殊塗料株式会社

■本　　社　〒114-8584 東京都北区王子5-16-7　☎(03)3913-6131　FAX(03)3913-6183

■塗料事業本部

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子5-16-7	☎(03)3913-6203	FAX(03)3913-6323
平塚営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀞1-10	☎(0463)23-2135	FAX(0463)23-3739
名古屋営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12	☎(0566)81-8111	FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-28-10	☎(06)6386-8492	FAX(06)6338-3560
広島営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231	FAX(082)423-8256
福岡営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766	FAX(0942)89-5762

http://www.nttoryo.co.jp/

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL　0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う **公告掲載URL　http://www.nttoryo.co.jp/** （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。）

【お知らせ】

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

日本特殊塗料株式会社
〒114-8584　東京都北区王子5-16-7　☎(03)3913-6131